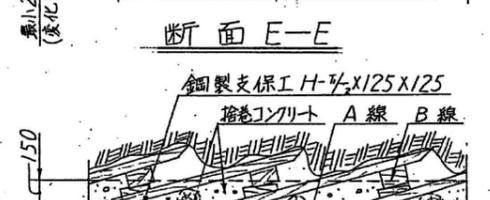
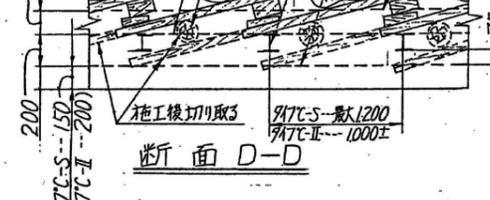
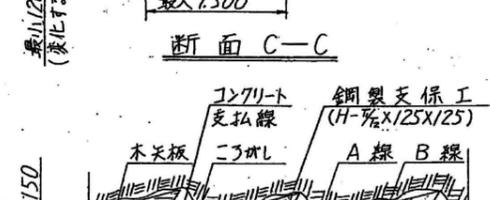
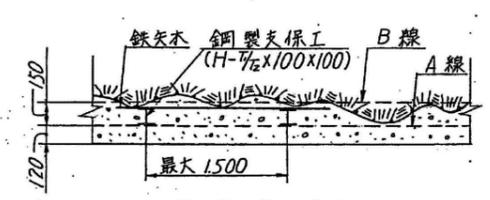
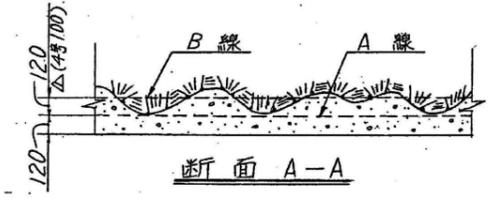
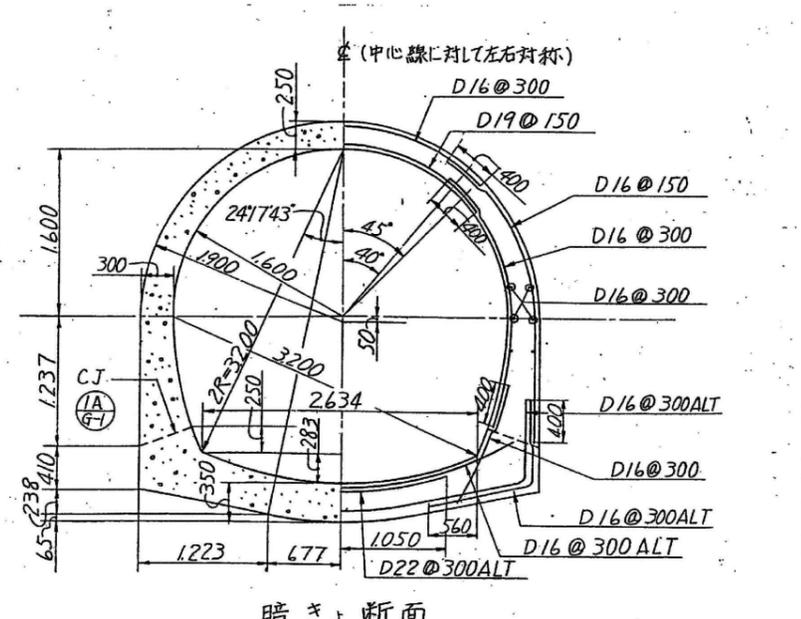
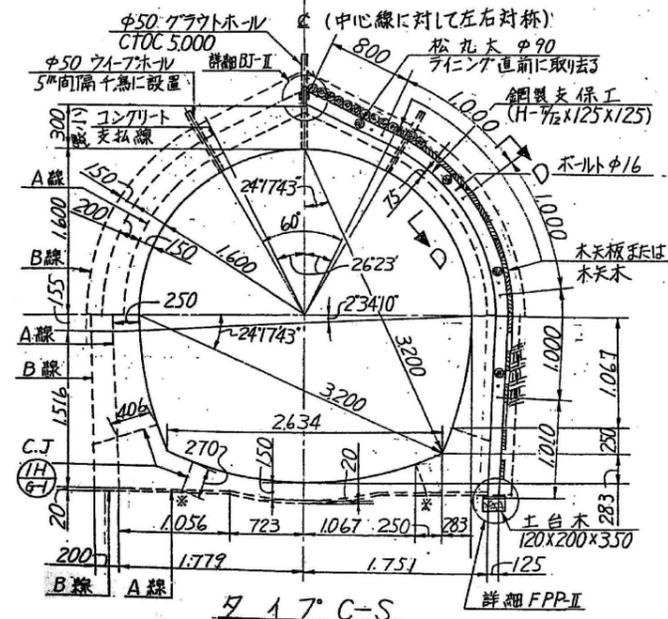
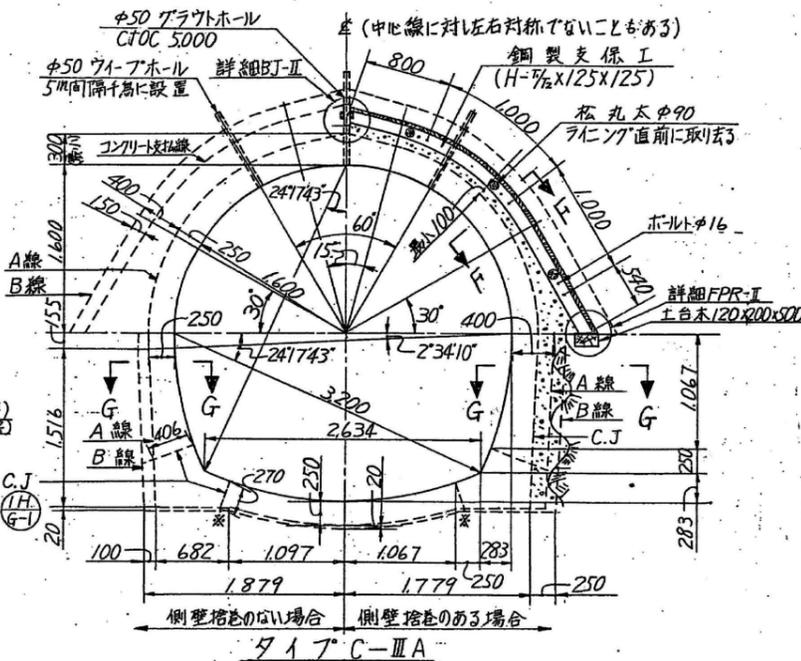
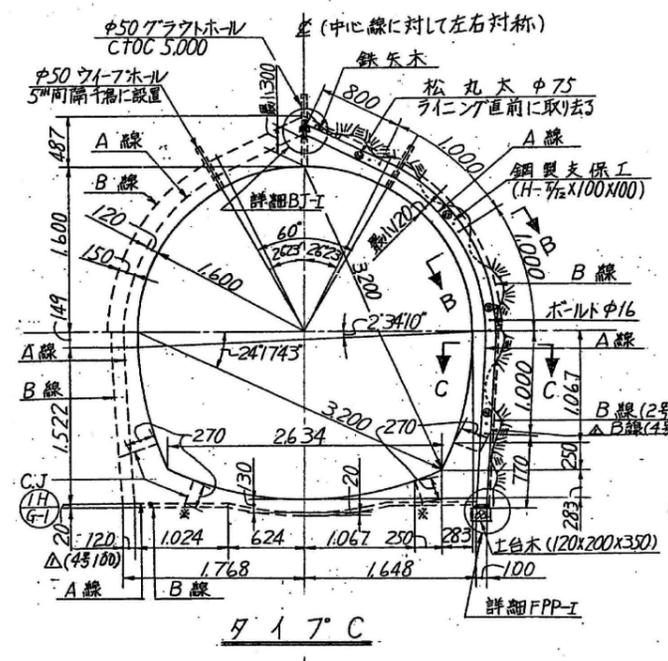
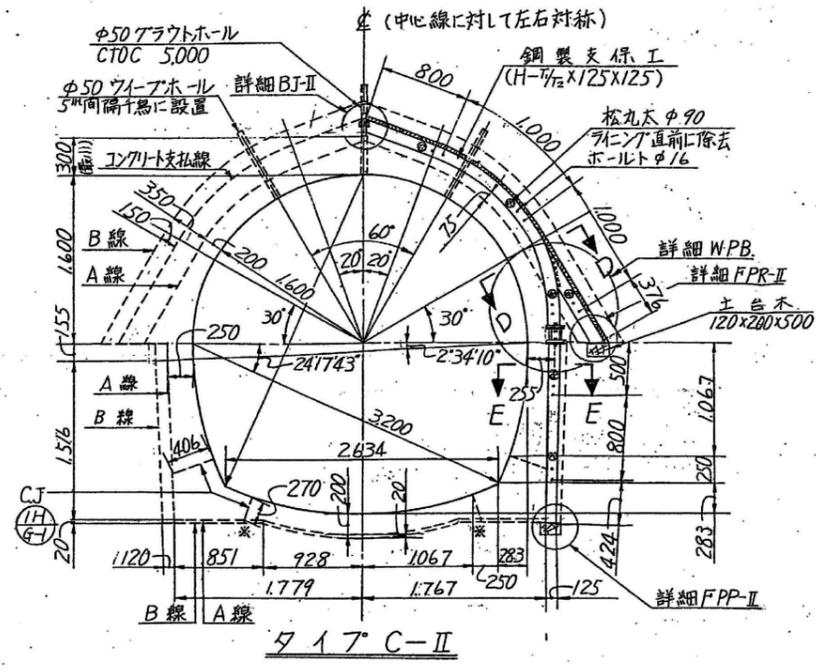
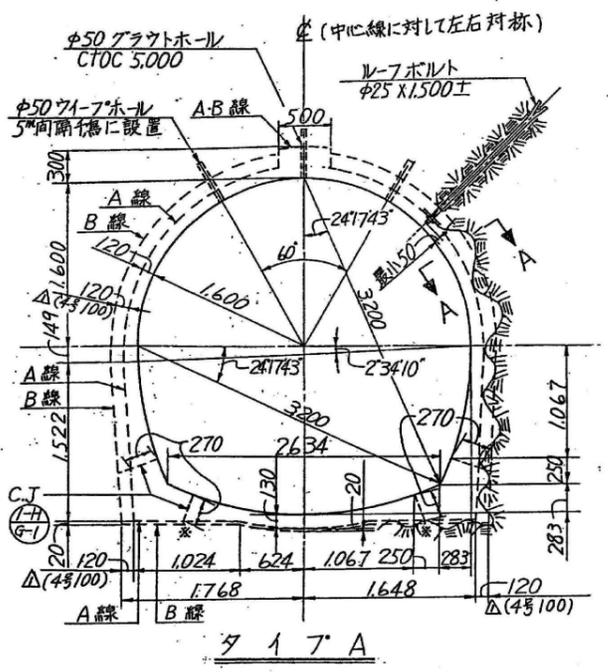


注意事項

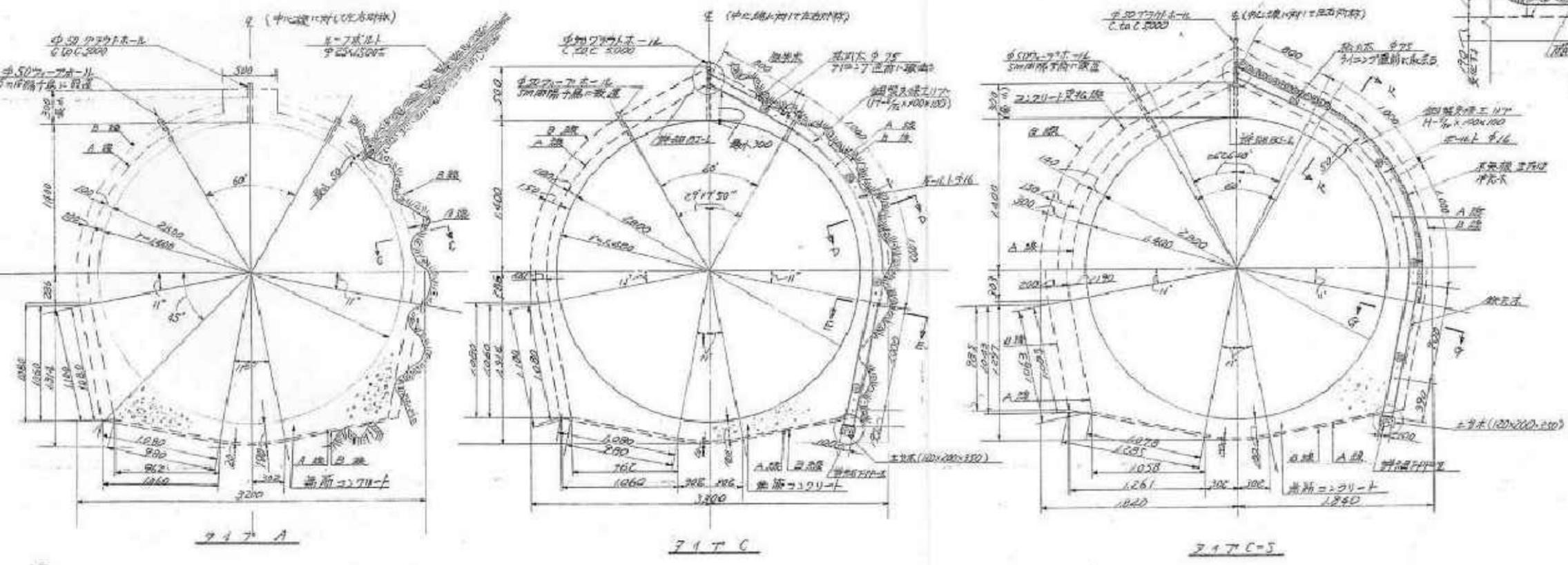
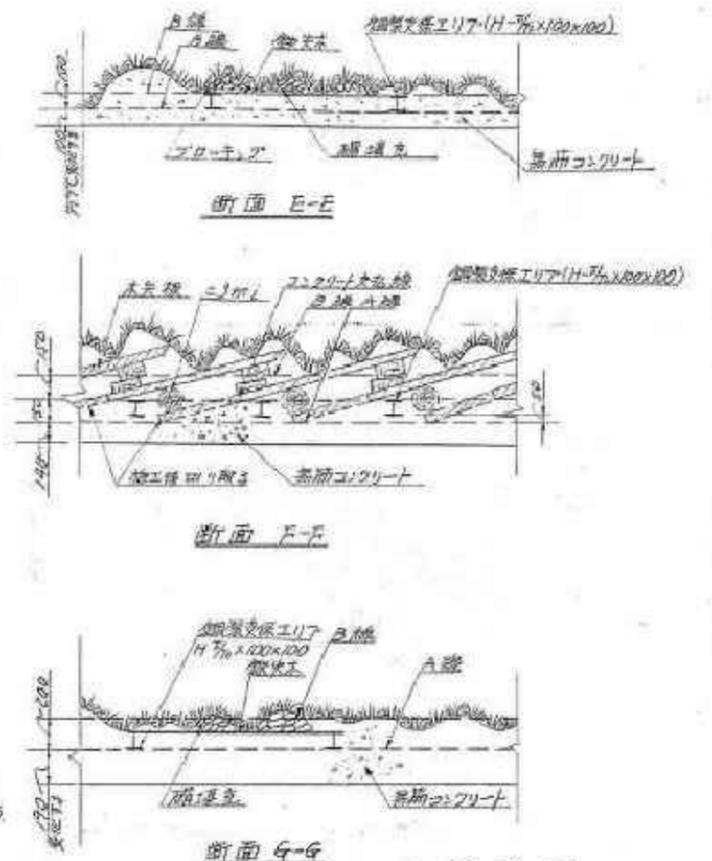
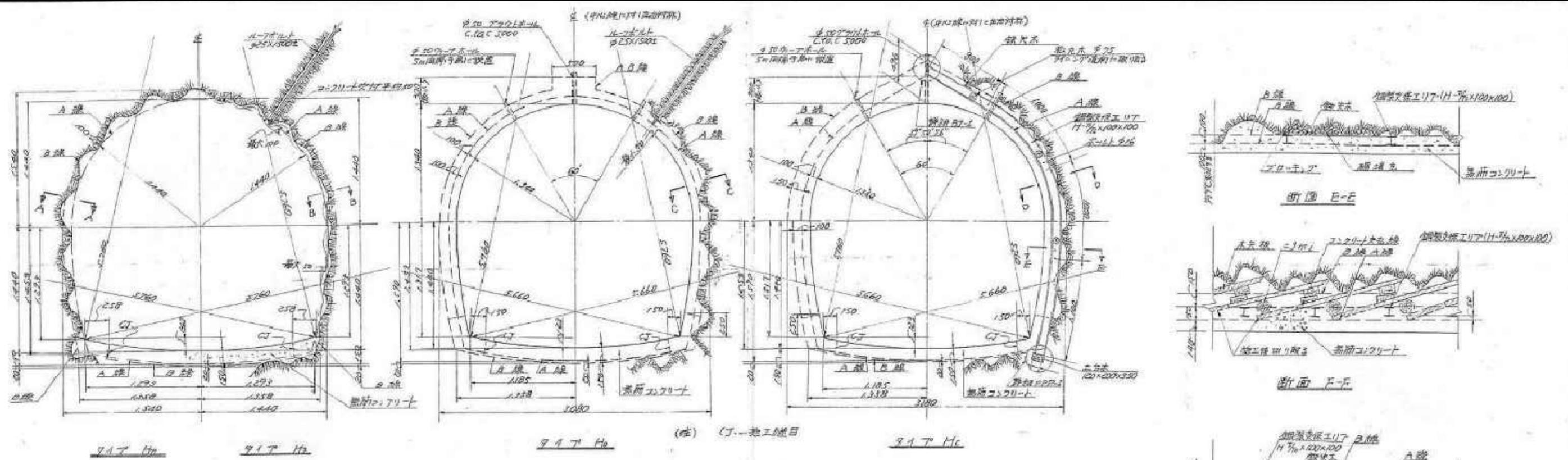
- A線の外側に木残が残留してもよい場合、ならぬにその正否は、次のとおりとする。
 - 捨巻のための木製支柱式支保工にて監督員の承認を得た場合。
 - スチールリブに打ちこめるための支柱式支保工にて監督員の承認を得た場合。
 - スチールリブまたはホストの土色ならぬにそれらと地山との間に打ち込まれたブロック。
- すり充填については次のとおり規制する。
 - インバートの余堀部分については「A」盛土に準じた締固めをする条件で認める。
 - フーチングの下部については、いかなる場合でも、すり充填を行ってはならない。
 - 地圧とスチールリブに平均に伝達するために行うすり充填は指定する矢板を使用し、行ない矢板はなるべく間隔をあげなければならない。
 - 堀さく前後または堀さく中に生じた空洞の充填、または処置については仕様による。
- A線は掘ききれない地山、木製支保工、すりなどがコンクリートライニングの際に残ってはならない線とするが、鋼製リブ(肋材)だけは、図示または許された限度まで残ってもよい線とする。またB線は掘きに対する支保線とする。コンクリートに対する支保量は図示する以外はB線までとする。
- 同一直径でライニング厚さの異なる断面の移行長さは100mとする。
- トンネルライニングの横断収縮継目は、全断面に連続して設けなければならない。その間隔は最大120m、最小30mを原則とする。(F)は主として、フーチング側壁、アーチに用いる。インバートと連続打設する場合には側壁と同ノリに(F)を設け打ちどまりは必ず(F)としなければならない。トンネル内外の水の流通を厳に阻止する必要がある場合は監督員の指示により止水板を設けることがある。
- 本巻と捨巻との間の空間はセメントミルクを注入する。
- 鉄矢木は中10cm当り断面係数25cm²を標準とし、監督員の承認を受けた物とする。
- ウーパホールはグラウト完了後せん孔する。
- グラウトホール、ウーパホールは岩盤内に15cm以上せん孔する。
- 施工継目はコンクリート内面に直角で※印部分のA線より下は鉛直とする。フーチングと側壁との継目は監督員の承認を得て省略することが出来るが図示する以外の施工継目は原則として認めない。
- タイプC-IIにおいてホスト運込みのための土平の掘削は、ホスト間隔の2回以上を同時にやってはならない。
- タイプC-IIにおいて支保工完成後地圧増大する場合は、リブを中間に追加補強し、またアーチリブ根固めコンクリートの打設を行うことがある。この根固めコンクリートはコンクリート内面線より15cm以上離さなければならない。またホストの連結が可能はよい工法としなければならない。
- 施工のために設けた排水溝は、インバート打設前に、砂利、乗石などの堅固な材料で埋戻し、その出口は監督員の指示により、フックリブを付けてトンネル内のインバートに設置する。この構造は(F)に準ずる。
- 詳細BJ-I, II, FPP-I, II, FPR-II, WPB などについては鋼製支保工詳細図(H-10212 S-T)参照。

△15 タイプA、およびタイプCにおいて(4号000)は、第4号トンネルの寸法を示す。

縮尺
標準断面図 1:30
断面A-A~F-F 1:20
断面G-G 1:50



| | |
|------------------------|---------------------------------|
| 件名 | 寒狭川導水路外耐震類推照査 |
| 名称 | 【先行耐震照査】佐久間導水路 第4号トンネル 標準断面図 |
| 登録番号 | 整理番号 01 |
| 独立行政法人 水資源機構 豊川用水総合管理所 | |



- 注意事項**
1. タイプ Hg の収付工列中は A 線に 5cm 以上入、2 は 50 以上、掘削後ホルト施工箇所は 10cm 以上 A 線に入る事が必要。
 2. イバノの施工区間は内面、持線に通りとする。
 3. タイプ C-5 断面で明確な部分には鉄釘不使用可。

| | | | |
|------------------------|------------------------------------|----|--|
| 件名 | 寒狭川導水路外耐震類推照査 | | |
| 名称 | 【先行耐震照査】振草導水路 振草トンネル、上下流部 標準断面図 | | |
| 登録番号 | 整理番号 | 02 | |
| 独立行政法人 水資源機構 豊川用水総合管理所 | | | |

寒狭川頭首工・導水路一般平面図

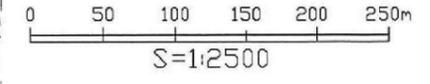


| | |
|------------------------|---------|
| 件名 寒狭川導水路外耐震類推照査 | |
| 名称 寒狭川導水路 位置図 | |
| 登録番号 | 整理番号 03 |
| 独立行政法人 水資源機構 豊川用水総合管理所 | |

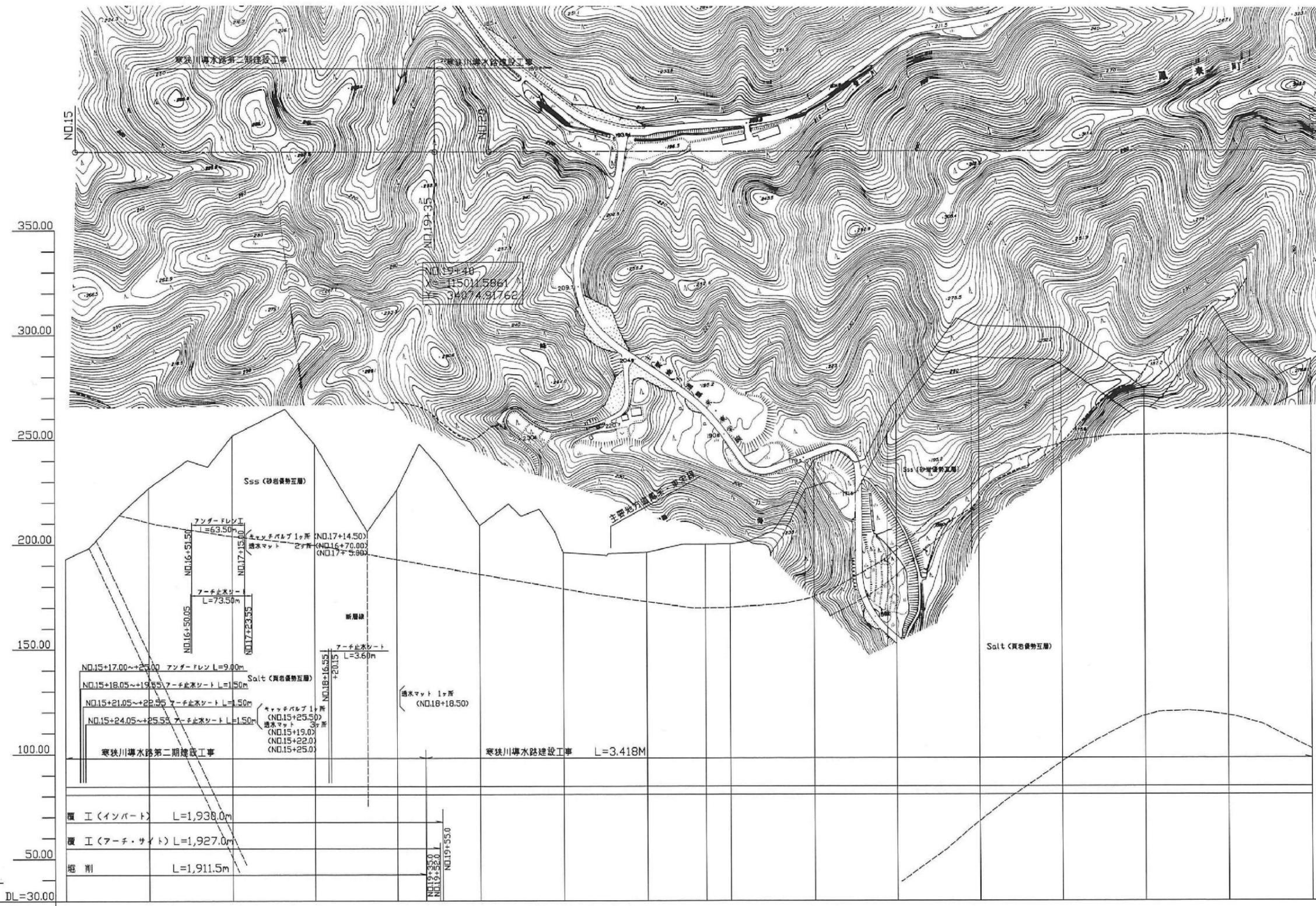
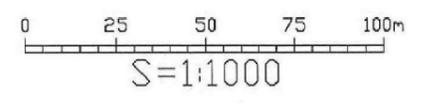
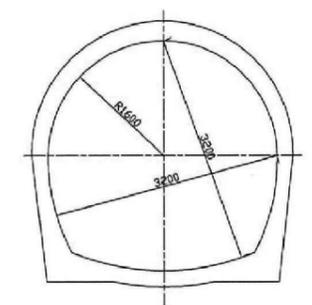
一般事項

適用区分
この設計図は内空断面の直径が、3.20mの標準馬蹄形トンネルに適用する。

全延長 1,911.5m
上向 330.65m
下向 1,580.85m
導水路勾配 1/1200



標準断面図



V=1:1000
H=1:2500
DL=30.00

| 地質状況 | トンネルタイプ | | | | | | | | | |
|---------|------------|--|------------|--|------------|--|------------|--|------------|--|
| | タイプB1 | | タイプB2 | | タイプB1 | | タイプB2 | | タイプB1 | |
| 画 | L=424.50 | | L=15.60 | | L=15.00 | | L=186.95 | | L=690.00 | |
| 計 | 勾配 | |
| 水面高 | 81.677 | | 81.594 | | 81.510 | | 81.427 | | 81.344 | |
| | 81.594 | | 81.510 | | 81.427 | | 81.344 | | 81.261 | |
| 水路敷高 | 81.677 | | 81.594 | | 81.510 | | 81.427 | | 81.344 | |
| | 81.594 | | 81.510 | | 81.427 | | 81.344 | | 81.261 | |
| 現況地盤高 | 193-78.854 | | 227-78.771 | | 232-78.687 | | 249-78.604 | | 226-78.521 | |
| 追加距離 | -1500.00 | | -1600.00 | | -1700.00 | | -1800.00 | | -1900.00 | |
| 測点 | ND15 | | ND16 | | ND17 | | ND18 | | ND19 | |
| | +1500.00 | | +1600.00 | | +1700.00 | | +1800.00 | | +1900.00 | |
| 曲線 | ND15 | | ND16 | | ND17 | | ND18 | | ND19 | |
| | +1500.00 | | +1600.00 | | +1700.00 | | +1800.00 | | +1900.00 | |
| トンネルタイプ | タイプB1 | | タイプB2 | | タイプB1 | | タイプB2 | | タイプB1 | |
| 勾配 | L=424.50 | | L=15.60 | | L=15.00 | | L=186.95 | | L=690.00 | |
| 水面高 | 81.677 | | 81.594 | | 81.510 | | 81.427 | | 81.344 | |
| 水路敷高 | 81.677 | | 81.594 | | 81.510 | | 81.427 | | 81.344 | |
| 現況地盤高 | 193-78.854 | | 227-78.771 | | 232-78.687 | | 249-78.604 | | 226-78.521 | |
| 追加距離 | -1500.00 | | -1600.00 | | -1700.00 | | -1800.00 | | -1900.00 | |
| 測点 | ND15 | | ND16 | | ND17 | | ND18 | | ND19 | |
| 曲線 | ND15 | | ND16 | | ND17 | | ND18 | | ND19 | |

件名 寒狭川導水路外耐震類推照査
名称 寒狭川導水路 平面・縦断面図 No. 2
登録番号 整理番号 05
独立行政法人 水資源機構 豊川用水総合管理所